

## 保育士にエールを 応援大使・ちゃんゆ胃<sup>い</sup>さんが来園

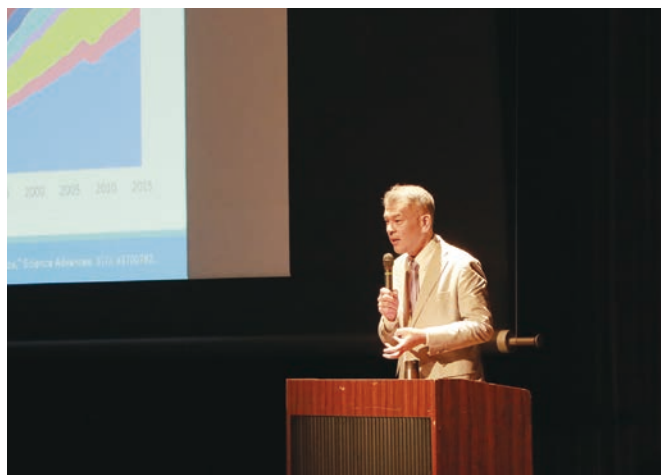
愛媛県が保育士を応援する機運を高めるため任命した「愛顔の保育士応援大使」ちゃんゆ胃<sup>い</sup>さんが、12月18日(木)に東大洲こども園を訪問しました。ちゃんゆ胃<sup>い</sup>さんは西条市出身で、保育士資格を持つシンガーソングライターとして、現在はラジオやCMなど幅広い分野で活躍しています。

当日は年長・年中の園児62人が参加し、一緒に歌を歌ったり、園児からの質問に答えたりしながら、笑顔あふれる和やかな雰囲気の中で交流しました。また、保育士のみなさんへ温かいエールが送られ、日々子供たちと向き合う保育士にとって大きな励みとなりました。



## 大洲のまちを未来へつなぐために

環境に配慮したまちづくりを考えるきっかけにしてもらおうと、「大洲市持続可能なまちづくりシンポジウム」を12月21日(日)に市民会館で開催しました。同志社大学経済学部原田禎夫<sup>ただお</sup>准教授が、肱川の環境を守るために必要な視点やこれまでの調査結果を紹介したほか、大洲高校普通科1年生が、総合的な学習の時間で研究した「食品ロス」「モビリティ(移動手段)」についての調査発表が行われ、多くの参加者が環境やまちづくりについて理解を深める機会となりました。



## 総務大臣表彰を受賞

大洲市行政相談委員の相原敏幸<sup>としゆき</sup>さんが、総務大臣表彰を受賞し、12月23日(火)に二宮市長を表敬訪問しました。

相原さんは、平成21年4月に行政相談委員の委嘱を受け、16年の長きにわたり、国など行政全般への苦情や意見・要望を受け付け、公正・中立の立場から、多数の相談の解決や要望事項の実現に貢献されています。



きらめき

ニュース

シリーズ

お知らせ

情報ひろば

図書館

未来を拓く

健康ナビ

相談・救急





## 災害に備えて

12月26日(金)、エムズ株式会社から備蓄用おむすび「天使のお結び」300パックの寄附がありました。1パック2個入りの「天使のお結び」は5年間の常温保存が可能で、加熱せずに食べることができます。松本豪介代表が「調理不要でそのまま食べることができるので、災害時に役立ててほしい」と話しました。二宮市長は「避難所生活では、災害関連死を防ぐためにも食事は大切。防災訓練などの機会に、防災士や市民のみなさんに紹介したい」と述べました。



## 前向きな気持ちを届ける絵馬を奉納

12月27日(土)、大洲高校美術部の1年生4人が制作した絵馬が、大洲市阿蔵の八幡神社に奉納されました。12月上旬から制作に取りかかり、日の出を背景に令和8年の干支である馬が力強く描かれています。制作した宇都宮乙花さんは「馬が浮かび上がって見えるような立体感にこだわり、明るく元気な絵馬にしようと、4人で楽しみながら描きました。絵馬を見た人が元気になってくれたらうれしいです」と話しました。奉納された絵馬は年間を通して拝殿に飾られます。



訓示する大洲市消防団 矢野 正祥団長

## 良い新年を迎えられるように

12月28日(日)、市役所玄関前で大洲市消防団の年末夜警出発式を行いました。暖房器具などの火気を使用する機会が増え、火災発生の危険性が高まることから、市消防団では、市民のみなさんに安心して新年を迎えていただくために毎年年末夜警を実施しています。今年も12月28日(日)から30日(火)までの3日間、市内全域で夜間の見回りなど防火啓発活動に従事しました。



## 「元気歯つらつコンクール」表彰おめでとうございます

愛媛県と愛媛県歯科医師会が主催する令和7年度「元気歯つらつコンクール」で、梶本ミサコさん(写真右)と高橋佳子さん(写真左)が入賞されました。このコンクールは、80歳以上で自分の歯が20本以上残っている健康な人(8020)を対象としています。口の健康を保つため、梶本さんは「歯のケアに加え、食事や運動に気をつけている」と話し、高橋さんは「医療機関で3か月に1回、歯石除去などの専門的なケアを受けている」と話していました。



## 七草がゆで元気にスタート 七草がゆ歩こう会

1月10日(土)、毎年恒例の「第41回七草がゆ歩こう会」が開催されました。開会式では、主催する肱南自治会の上野マリエ会長が「病気のない健やかな1年となるよう、七草がゆを食べてスタートを切りましょう」とあいさつしました。参加した約280人は、大洲市民会館を出発し、少彦名神社や大洲神社を参拝。1年間の健康と幸せを祈りながら約7kmの道のりを歩きました。ゴールの城山公園交流広場では、地域のボランティアや大洲南中学校の生徒会のみなさんが用意した七草がゆを味わい、歩いた疲れを癒していました。



## 大鯛まきで福をつかむ

大洲神社の伝統行事、十日えびすまつりが1月9日(金)から3日間にわたって行われ、商売繁盛や家内安全を願って多くの参拝客が訪れました。1月10日(土)に行われた「大鯛まき」では、「鯛」と書かれた紅白の餅を拾った松山市在住の宮岡やすゆきさん(写真左)と、宇和島市在住の谷美津子さん(写真右)に約7kgの大きな真鯛が贈られました。初参加の谷さんは「目の前に餅が飛んできた。近所の人に福をお裾分けしたい」とうれしそうに語っていました。



## 大洲出身だからこそ味わえる特別な体験

1月10日(土)、20歳を迎えた若者が城主として入城体験を行う「大洲城キャッスルセレモニー」が開催されました。通常は非公開のキャッスルステイ(城泊)の一部を一般公開し、シビックプライド(地域への誇りや愛着)の醸成につなげようと、一般社団法人キタ・マネジメントが企画。当日は、大洲高校卒業生4人が甲冑姿で城主役を務め、太鼓とほら貝の音を合図に入城。大洲藩鉄砲隊による祝砲も放たれ、会場は厳かな雰囲気になりました。参加した中岡謙心さんは「大洲出身者しかできない貴重な体験ができてよかった」と話していました。







## 今年で第70回！寒中水泳大会

成人の日の1月12日（祝・月）、如法寺河原で寒中水泳大会が行われました。今年で第70回を迎えた今回の大会では、主馬神伝流などの日本泳法が披露されたほか、県内外からの参加者48人が水温3℃の清流肱川を泳ぎました。

恒例の水書・日傘に参加した新成人の中戸琉銀さんは「すごく寒くて肺がつぶれそうだったが心が引き締まった。20歳は節目の年。立派な大人になって親孝行したい」と話していました。



## みんなで考えよう、大洲のこれから

1月18日(日)、第3次大洲市総合計画の策定に向けた「大洲市の将来を考えるワークショップ」を開催しました。市民43人が6グループに分かれ、大洲市の資源や魅力について、日頃感じていることやアイデアを出し合いながら、活発な意見交換を行いました。

各グループからは、空き家や空き地を活用した世代を超えた交流拠点の整備や、豊かな自然を生かした一次産業の活性化など、大洲市の強みを生かした多様な取り組みが提案されました。



（左から）武田恋さん、中野太陽さん、柳原亜美さん

## パン作りで全国へ 農高生が大健闘！

1月17日(土)・18日(日)、静岡県伊豆の国市で開催された「全国高校生パンコンテスト」に、大洲農業高校食品デザイン科の生徒3人が出場しました。

2年生の中野太陽さんと武田恋さんは、初心者向けの「手仕込み部門」に挑戦。62人の応募者の中から書類審査を通過し、本戦に進出できる4人に選ばれました。本戦では、指定の分量・配合で作ったドックロール5本と製作工程の動画を提出して審査が行われ、中野さんが最優秀賞にあたる「新人賞」を受賞しました。

3年生の柳原亜美さんは、上級者向けの「カリフォルニアくるみ部門」に出場。同部門を含む4部門には135人が応募し、24人が現地での本戦に進出しました。柳原さんは、ナッツやレーズンを使った「カンパーニュ」を製作し、作品への思いや魅力をプレゼンテーションで伝え、「特別賞」を受賞しました。

中野さんは「初めてのパン作りでしたが、みんなから『おいしい』と言ってもらえてうれしかった。来年は自分で考えたパンで出場したい」と笑顔で話しました。卒業後は県内の製菓会社に就職する柳原さんは「本番は緊張しましたが、いつもどおりの力を出すことができた。この経験を生かして、何事にもチャレンジしていきたい」と意欲を語ってくれました。



現地での実技審査に挑む柳原さん

かんきつ  
【柑橘とレタスのサラダ】

## 材料（4人分）

柑橘類	200～250 g
レタス	130g
キュウリ	1本
レモン汁	大さじ1
粒マスタード	小さじ1
塩	A 小さじ1/4
こしょう	少々
オリーブ油	大さじ1

## 作り方

- ① フルーツ（柑橘類）は皮を剥き、小房から実を取り出す。
- ② ボウルにAを混ぜ合わせる。
- ③ キュウリは斜め切りにしたものを、3～4つに切る。
- ④ レタスは食べやすい大きさにちぎる。
- ⑤ レタス、キュウリ、フルーツ（柑橘類）とAをさっと混ぜ合わせて器に盛る。

## 柑橘類の栄養

柑橘類は、ビタミンC、クエン酸、βカロテンが豊富に含まれています。ビタミンCには優れた抗酸化作用があり、活性酸素（細胞を傷つけて老化や病気の原因になる）を除去するのに役立ちます。

また風邪予防や生活習慣病の予防にも効果が期待でき、さらに肌の調子を整え、美肌効果も期待できます。



【レシピ提供：健康増進課】

CDO補佐官 鈴木邦和の 第37回

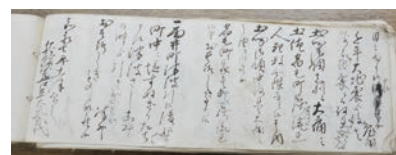
## DXのすゝめ



世界のDXは、データを分析して未来を「予測」する段階から、デジタルが自ら判断し実行する「自律」の段階に突入しています。例えば、アメリカのウォルマートでは、AIが取引先と価格や納期を交渉し、契約まで完結させる仕組みを導入しています。シンガポールの最新地区では、都市OSが街中のセンサーから人流や気温を感知し、照明や空調、清掃ロボットの動きを24時間最適化しています。ドイツのBMWのスマート工場では、AIが部品の欠品や機械の不調を察知すると、生産工程を自動で組み替え、ライン停止を未然に防ぎます。また、エストニアでは、定型的な少額訴訟で証拠を精査して判決案を作成し、手続きのスピードを向上させるAI裁判官が導入されています。さらに、デンマークのマスクでは、気象や港湾の混雑状況をAIが解析し、燃料消費を抑える最適な航路を自ら選択しながら巨大な貨物船を運行させています。

このように現代のDXは、単なる「便利な道具」ではなく、現場の状況を読み取り、最適な判断を自ら下して実行する「考えて動くパートナー」へと進化を遂げているのです。

## 文化財



永代記録帳（愛媛県歴史文化博物館提供）

兵頭家文書

大洲市指定有形文化財（古文書）

個人所蔵/愛媛県歴史文化博物館保管

この文書は、江戸時代に出海村（現在の大洲市出海）の庄屋を務めた兵藤家に伝わる、江戸時代から明治時代にかけての資料です。

出海村に寄港した廻船（民間商船）の記録など海上交通に関する資料をはじめ、漁業、村政、信仰、家系など多岐にわたる内容を含んでいます。藩からの通達や村内外の様子を記した「永代記録帳」では、安政南海地震の被害状況などを知ることができます。また、兵藤家が村の子供たちのために寺子屋を開いていたことを示す、千字文や四書五経、往来物など教科書として使われた典籍なども多数残されています。

庄屋に関する多数の資料がまとまって残されており、庄屋の役割、当時の生活や教育などを知ろううえで、大変貴重な資料といえます。

（平成16年9月9日指定）